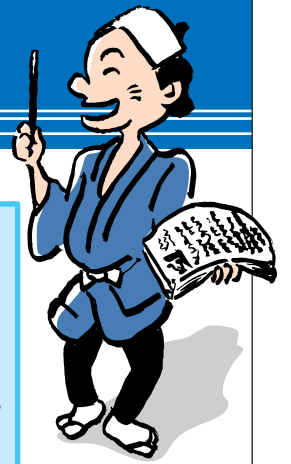


はらじゅくかわら版



独立行政法人 国立病院機構

横浜医療センターの理念

私たちは、患者さまの人権を尊重し、思いやりの心をもって安全で納得していただける**患者様中心の医療**を目指します。

私たちは、急性期の地域医療を基盤として質の高い総合的な専門医療を提供すると共に、関係医療機関と密接な連携をもつ**地域完結型医療**を目指します。

私たちは、健全な病院経営を心がけ、患者様がより良い医療が受けられ、**地域で選ばれる病院**になるべく日々努力していきます。



あじさい。梅雨どき、ぬれるのはいやだなあと感じてしまいがちですが、グレーにけふる景色のなかに、雨に溶ける色は風情があってよいものですね。山本純子

第13号 目次

病院機能評価の認定	1
就任挨拶/第8回日本医療マネジメント学会学術総会	2
地域医療連携	
病診連携施設紹介	3
地域医療連携室から	4
栄養管理チーム(NST)活動	5
お知らせコーナー	
医療安全管理室より	6
看護師募集/ボランティアの募集/検討会・研究会の開催	7
シリーズ	
気になる病気	8
職場紹介 — 小児科/皮膚科	9
看護部だより	10

行事等紹介

消防訓練/看護学校・病院	11
糖尿病フェアについて	12
研修医紹介/医師の人事異動	13
患者数の動向/編集後記	14
外来担当医表	15

発行 月：平成18年7月
 発行 行：独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター
 広報委員会
 発行責任者：高橋 俊毅
 住 所：横浜市戸塚区原宿3-60-2
 電 話：045-851-2621
 F A X：045-851-3902
 U R L：<http://www.hosp.go.jp/~yokoham/>

病院機能評価の認定

当センターは平成18年4月24日に財団法人日本医療機能評価機構の病院機能評価で認定病院となりました。平成17年3月22, 23, 24日の受審時に保留となった精神科病棟の改良工事と、病棟薬剤の個別払い出し、レントゲンフィルムのアライバイ管理などを改善した結果でした。しかし、受審はバージョン4.0であり、一段と厳しくなった現在では手放しには喜べないと思います。しかし準備段階での各職種、職場を越えての協力関係の促進、ひいてはチーム医療の推進、また、精神科病棟にみられた国立病院時代に行われなかった病棟の近代化、私はじめ職員の国家公務員的体質からの脱却や意識改革など、まさに国立病院の非常識部分を普通の病院並みにしたいという目的が少しは達成されたと思います。準備にはお金がないためと人間が変わるには時間が必要だと思い、当院赴任以後の2年間をかけて少しずつ提案してきました。すでに認定されている大和市立病院、北里大学東病院などに見学いき、資料と様々なアドバイスをいただきました。ありがとうございました。帰院後、できるだけ客観的な自己評価を行い、これを元に課題を抽出しました。低い評価や課題の多さによりさらのごとく認定病院レベルからの乖離に仰天し、ため息もでましたが、早速にプロジェクトチームを編成し各課題に取り組みました。平成17年度は病院が独立行政法人となった2年目であり病院運営そのものも成果が問われ、余裕のない予算と旧国立病院時代に常識的な組織編制や投資が行われていず、職員の努力と創意工夫のみが頼りでしたが限られた時間内で職員はよくやってくれたと思います。心より感謝申し上げます。しかし、まさに認定は通過点と考えています。これで安心することなく、利用していただいている地域の住民や医療機関の方々のご意見を充分に取り入れて、しなやかに、また持続的に患者さん中心の医療が実践できる病院を目指したいと願っています。



院長 高橋 俊毅



就任挨拶

Evidence Based Medicine と Narrative Based Medicine

今年4月に副院長に昇任致しましたが、私の信条は今まで“通り”管理職にあっても臨床を第一に考えて患者と病院に貢献することです。各職場の皆様方も今まで通りの御理解と御協力をお願い致します。病院が真に“患者中心の、そして経済効率の良い病院”を目指すのであれば、管理職にあるものもドクターやナースを問わず、常に現場中心を心掛けるのは当然のことと思います。さて、私の職責の第一は医療安全管理ですが、ここでは医療の「質」と「効率」と、そして多分「安全」にも関わってくるであろうと私が感じている話題をお話しします。

セカンドオピニオン外来をやっていると“EBM (Evidence Based Medicine) や Informed Consent は手術を前提とする外科系診療科の場合にはどのような意味を持つのだろうか”と考えるようになります。“死亡率-%、合併症-%、成功率-%、あとは「患者さま」が手術を受けるかどうか決めて下さい”と言われて、多くの患者が迷った末に私の外来に相談に来ます。どんなに精密な数字を挙げてもらっても患者にとっては決断の契機とはなっていないようです。むしろ外科医が自分の信じる治療方針を説得する努力をせず、患者に選択させるということに不安と不信さえも感じているようにみえます。そんな疑念を抱いた患者の多くはいんぎん無礼な言葉遣いの呼びかけや番号での呼び出しに対して“医療従事者が過度に防御的になって患者との間に距離を置こうとしている”と感じているようです。マニュアル、パス、電子カルテの類は“医者が患者に直接触れる「お手当て」の障害物”とも捉えています。このような患者心理が医療機関に対してより一層の不信と争訟の構えを起こした事例を何度か経験しました。最近、EBMに対してNB M (Narrative Based Medicine) を唱える識者がいます。医者が熱心にEvidenceを説いても“患者が本当に求めているのはNarrative (お話し、物語り) であって、お互いの信頼関係が構築されることにこそ真の意味があるのではないか”ということのようです。かつての日本の医療は確かにそうでした。“話術とお手当てがあってこそ医は仁術”なのかな――などと考えるこの頃です。



副院長 藤津 和彦

第8回日本医療マネジメント学会学術総会

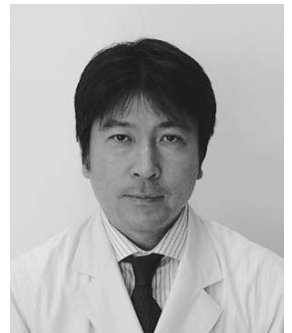
第8回日本医療マネジメント学会 学術総会事務局長 宇治原 誠

6月16日17日の両日、みなとみらいのパシフィコ横浜国際会議場にて、第8回日本医療マネジメント学会学術総会が開催されました。当院の高橋俊毅院長が今回の大会長であり、当院職員が会の準備、運営を行いました。

日本医療マネジメント学会は創設してまだ約10年の若い学会なのですが、医師、看護師、薬剤師、栄養士、検査技師などの医療関係者を会員として急速に発展し、現在、医療系の学会では日本最大級となっております。

今回の学術総会は「医療の安全と質—医療・介護提供体制の改革をめぐって」をテーマとし、総演題数は約800題で、医療のあらゆる分野の問題について活発な討論が行われました。また特別講演として、中田宏横浜市長やテレビのコメンテーターの萩谷順さん、介護で有名な、レモンちゃんこと落合恵子さんにご講演いただきました。会は、滞りなく、トラブルなく行われ、参加者は4300名と過去最大でした。注目度も高く、メディアの取材は30社以上から頂戴しました。大盛会であり、大成功でした。

今回高橋院長を中心に職員が協力して開催し大会を大成功に導いたことは当院にとって大変な名誉なことであり、今後も、この大会で討論し、勉強したことを、日々の診療に活かしてまいりたいと思います。また市民公開講座にご参加いただいた方には厚く御礼申し上げます。



地域医療連携 病診連携施設紹介

市川医院

診療科目：精神科



市川康夫院長

卒後11年にて採用され、30年余（1965.3.1～1995.4.1）勤務した国立横浜病院で、総合病院精神医学の本当の勉強をさせていただいたと、つくづくと思います。定年の1年前に、勸奨にさせていただいて辞職し、JR戸塚駅西口の近くに当院を開設しました。その後11年余になります。

この間の精神科の医療現場の変遷は、振り返ってみますと、目を見張るものがあります。はじめは、脳神経外科も神経内科もない状況下で、意識混濁や通過症候群、あるいは神経心理学的な症状の患者さんが多くて、medical psychiatry の勉強をする機会に恵まれました。剖検になった症例のCPCでは、諸先生から厳しく突っ込まれたものでした。また、統合失調症や中毒性精神病の患者さんのなかには、いまでは考えられないほどの激しい興奮状態を呈する例があり、事務官の方々に外来診察室や病棟に来てもらって、やっとなんとかか処置をするということがしばしばありました。

その後、うつ病、うつ状態や不安障害の患者さんが多くなりました。世の中が変わったせいか、人間が変わったためかと、いろいろと言われます。さらに最近は、人格障害というような人々も当院に受診してくるようになりました。若い頃にそのようなことについて十分な研修や討論の機会がありませんでしたので、ふたたび刮目して、諸先達の論ずるところを学習している今日です。



市川医院

〒244-0003 戸塚区戸塚町103

TEL 045-862-3600 FAX 045-862-3683

診療時間

月、火、水 9:30～13:00 15:00～17:30

金、土 9:30～13:00

休診日：木曜、日曜、祝日

診療科目：精神科

地域医療連携室から

紹介元施設訪問を実施中

医事専門職 泉厚彦

他院からの紹介状をお持ちになって当院を受診された患者さんが、平成17年度は約8400名でした。平成16年度と比較してみますと約20%増えております。これも偏に地域の先生方のお陰と心から感謝申し上げます。

という経緯から、紹介していただいたお礼かたがた今後も引き続きよろしくお願ひしたい気持ちから、地域の先生方の医院を訪問することになりました。院長、統括診療部長、はたまた診療科の部長が、当院の医師名簿や病院概要を持ち込み車に乗り込みました。(平成18年6月9日現在、訪問した医療機関は34施設)

訪問してまず驚かされるのは、どの医院も患者さんが溢れているということです。本当にたくさんおります。患者さんが溢れている中にも医院それぞれが患者さんの接遇に工夫をされており、患者さん一人一人を丁寧に温かく診ているということが強く感じられました。そして、急な訪問にもかかわらず当院を受け入れてくださる時の接し方の丁寧さ、本当に恐縮いたします。当院に対してこれだけ丁寧なので患者さんに対しては宜なるかなです。

訪問計画はまだ中途ですが、当院としては紹介されるにふさわしい病院(つまり、当院に入院して本当によかった。当院でなければならぬという医療レベルの病院)にならねばと思いを新たに施設訪問でした。紹介元の先生、今後もよろしくお願ひ申し上げます。

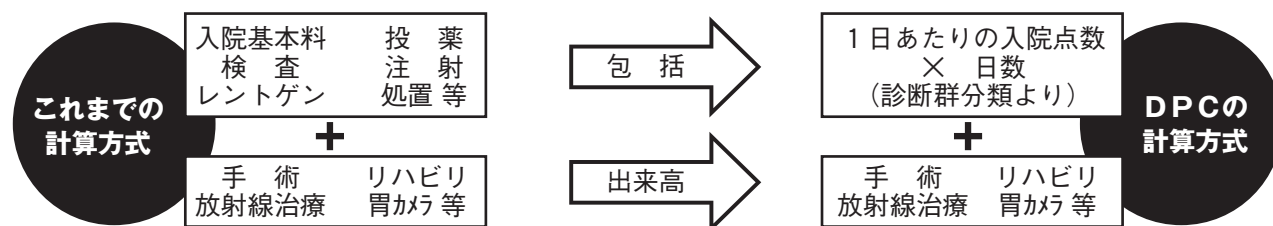
DPC(包括診療)方式による医療費のご請求について

経営企画室長 樋口弥

当院では、平成18年6月1日より一般病棟に新規入院される患者様に対して、医療費の計算をDPC(包括診療)方式に移行しました。

これまでは、患者様ごとに実施した診療行為に基づき料金を計算する「出来高払い」として請求させていただいておりましたが、DPC(包括診療)方式では、入院される患者様の病気や病状をもとに、厚生労働省から通知された診断群分類ごとの1日当たりの定額の点数を基本として計算する新しい方式です。

定額の点数に含まれるものは入院基本料や特定の検査、投薬、注射及び画像診断等ですが、手術やリハビリテーション等については定額の点数に含まれず、従来どおりの「出来高払い」として定額の点数に加えて計算されます。



DPC(包括診療)方式は、すべての患者様に適用されるわけではなく、病気の種類によって、これまでの「出来高払い」で医療費を計算する場合があります。このほか、自費診療や労災保険等を適用なさる方も「出来高払い」となります。

患者様からの医療費の支払方法については、基本的に変わりありません。

ただし、病状の経過や治療内容によって診断群分類が変更になった場合には請求額が変動するため、退院時等に前月までの支払額との差額を調整する場合があります。

ご不明な点がございましたら、どうぞお気軽に入退院窓口でお尋ねください。

栄養管理チーム(NST)活動

胃の手術後の不足しがちな栄養素について 当院栄養管理チームの成果

栄養管理チームについては、この原宿かわら版、インターネットなどを介して活動内容などをお知らせしてきました。

今回とりあげたいのは、胃の手術後の栄養素の不足についてです。

昨年より、胃の手術を受けられた患者さんおよびご家族に食事の調査により、不足しがちな栄養素がわかりましたので、報告させていただきます。

これは当院で実施されている胃・大腸癌長期連携パスの対象患者様および診療所の先生のご協力があって初めて為し遂げられたものです。本記事をもって心より御礼申し上げます。



外科医長 佐藤靖郎

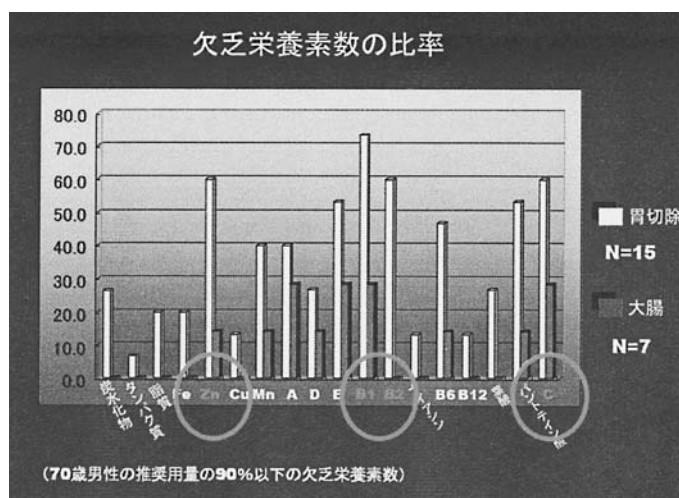
胃切除を受けた患者さんのうち、ビタミンB₁が7割の方で十分摂取していない。ビタミンC、ビタミンB₂、亜鉛も6割の方で摂取量が不足していることがわかりました。(グラフ1)

ビタミンB₁が不足すると食欲不振、全身倦怠感がおこりやすくなります。

食物では豚肉、ハム、うなぎ、種実、豆類に多く含まれています。

ビタミンB₂が不足すると、口角炎、粘膜炎が発生しやすくなります。レバー、うなぎ、乳製品、納豆などに多く含まれています。

ビタミンCは免疫力や傷の治りに関係するといわれており、果物、野菜に多く含まれています。最後に亜鉛は免疫、味覚に関係します。魚介、肉、種実、穀類、卵黄などに多く含まれています。これらの食事をうまく摂取できればよいのですが、栄養相談を受けることをお勧めします。また、今回の調査でエネルギーは十分足りていても栄養素が不足している場合もありうるということが判明いたしました。その場合、適切な栄養剤でうまく補うことも効果的なのでご相談ください。



胃切除、大腸切除術後の不足する栄養素の割合

お知らせコーナー

医療安全管理室より

(前) 安全管理担当師長 富田 美知子

医療安全管理室が設置されて4年目に入りました。医療安全管理室長に藤津和彦副院長が就任され、新年度がスタートいたしました。さっそく、6月2日（金）には『医療の安全と質と効率』について講演があり、174名の職員が聴講しました。講演の中で、最近、話題になっている『患者様』という呼称について一石を投げられました。

調べてみると2001年11月厚生労働省の「医療サービス向上委員会」が、患者に対する言葉遣いや対応の仕方を改めるため、個人名を呼ぶときに、「〇〇様」と呼ぶことを求め、『患者』という普通名詞に様をつけることを求めたものではないことがわかりました。

ただ単に「さま」と呼称しても、接遇態度ひとつで信頼関係を損なうことがあることを知っておきたいと思いました。

6月の医療安全推進月間の取り組みでは「いろはカルタ-医療安全-はらじゅく版」を全部署で作成し、病院玄関と中央廊下2ヶ所に掲示しました。一番良いと思うカルタに赤いシールをつけていただいています。『確認が患者もあなたも守ります』『わかってるふりをするのが事故のもと』『にっこりと忙しい時こそ冷静に』が支持されています。安全で安心な医療の提供ができるよう『事故防止』を自分の事として考え、行動できるように研鑽していきたいと思います。



『医療の安全と質と効率』講演会の風景



『いろはカルタ-医療安全-はらじゅく版』より

看護師募集中

募集職種：非常勤看護師

勤務時間：週30時間

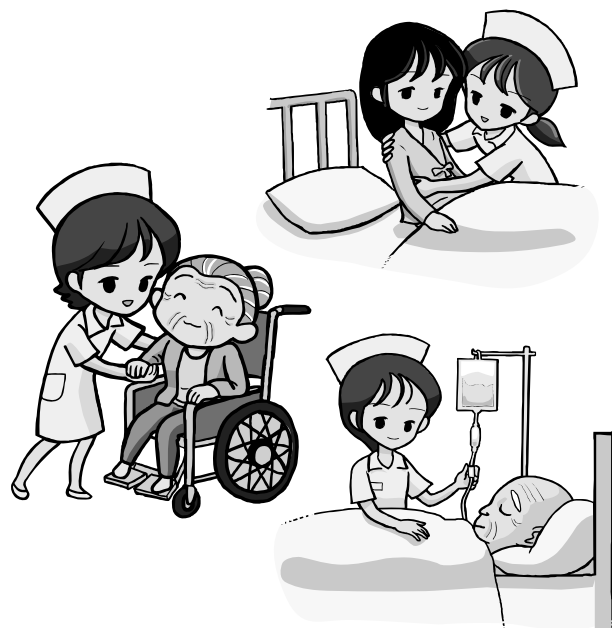
(勤務日・時間応相談)

給 与：時給1,520円

(月額約190,000円)

連絡先：管理課給与係 篠原

電話番号：045-851-2621



ボランティア活動

活動内容

- ・インフォメーション（案内）
- ・タオルたたみ
- ・花の水かえ
- ・子供の遊び相手
- ・花壇の手入れ
- ・本の整理
- ・車椅子使用者の介助



活動曜日と時間

- ・月曜日～金曜日（休日を除く）8:30～17:00
- 2～4時間程度

心構え・その他

- ・ボランティアは心身ともに健康であることが大切です。
- ・ボランティアは16歳以上の方が対象です。
- ・患者さまのプライバシーを守りましょう。
- ・病院の規則や指示に従って活動します。
- ・活動を根気よく続けることに意義があります。
- ・交通費・食費は自己負担になります。



病院ボランティアとは

- ・病院内で、病院職員と協力し合い、患者さまが安全で安楽に入院生活が送れるように、自発的に無報酬で奉仕活動をする人のことです。
- ・医療に関する専門的な知識がなくても、ボランティア自身の経験や技術を活かした活動、誠意ある心からの活動ができることがボランティアです。

横浜医療センター症例検討会・研究会開催のお知らせ

西横浜整形外科症例検討会

開催日時 毎月第3木曜日 午後7時～

開催場所 当院大会議室

連絡先 日塔整形外科部長
045-851-2621（代）

横浜藤沢消化器疾患研究会

開催日時 毎月第2月曜日 午後7時～

開催場所 当院大会議室

連絡先 小松外来診療部長・松島消化器科部長
045-851-2621（代）

各症例検討会・研究会にご興味をお持ちの先生は、どなたでも参加を歓迎いたしますので、ご連絡下さい。

気になる病気

●●●● 腰部脊柱管狭窄症について ●●●●

「もともと腰は痛くなるのが度々あったけど最近歩いているとあしが痺れて長く歩けないんです」とか「立っているとおしりから足まで痛くなってきます」などの症状の訴えがあると腰部脊柱管狭窄症を疑います。これは加齢によって腰椎が変形し、靭帯が厚くなって脊柱管が狭くなり、中を通っている神経が圧迫されて痺れや痛みを起こす病気です。一般に起立歩行しているときに更に脊柱管が狭くなるので下肢の痺れや脱力、痛みが強くなり、だんだん歩けなくなります。この症状はしゃがんで休むと脊柱管が拡がって軽快します。

当院でもこの病気にかかる方が増えています。病院ではまず診断のためにレントゲンやMRIなどの検査を行います。症状にもよりますが通常は飲み薬を投与します。ただし日々の生活にもかなり困っているという方には硬膜外ブロックや神経根ブロックなどの注射、入院して循環改善剤の点滴などを行います。もともと神経の通り道が狭くなってなる病気なので、これらの治療では改善せず、結局手術で神経の通り道をひろげなければ改善しない方もいます。ただし症状の辛さというのは本人しかわからないものであり、自然に治らなくても手術をするかどうかは本人次第です。当院ではこのブロック注射や手術を多く行ってきております。思い当たる症状のある方はまずは近くの医院や病院の医師に相談してみてください。



整形外科部長
日塔 寛昇



ストレスにならない減塩料理

栄養管理長
川村 美和子

塩は我々人間が生きていく上でなくてはならないものですが、取りすぎは禁物です。暑い季節になると、汗がでるため、どうしても塩分の濃い料理が欲しくなります。また逆に塩分に気を使い過ぎ、味気のない調理で食欲減退になり、夏バテのもとになってしまいます。次の点に注意して薄味でも美味しい調理を心がけましょう。

1, 食材の持ち味を上手に引き出す

新鮮な食材や旬の取れたての野菜を食卓へ。新鮮な魚や自家菜園の野菜など、たとえば、トマトやキュウリはそのまま洗って食卓へ出しましょう。何も味を加えなくても美味しいはずですが、何でも塩やドレッシングをかけていた方、どうぞ試してみてください。

2, だしでうま味をだす。

日本古来の食文化であるだしの味を大切にしましょう。化学調味料は簡単にうま味を演出しますが、味も濃いです。煮干しやかつお節など今一度天然のだしで煮物やみそ汁を作ってみませんか？簡単に天然のだしパックの使用でもかまいません。みそ汁や煮物の塩分が減ります。

3, 香辛料を上手に使う

塩分を控える代わりにカレー炒めやこしょうをきかした野菜炒めなどは食欲の衰えた夏に最適です。また辛子あえやわさび和えなど、ぴりっとして、塩分控えて辛味をきかせ、食欲アップをはかりましょう。

4, 油を適度を使いコクを加える

鶏のささみにパン粉をつけて油を少量かけ焼いたり、キスやアジをマリネにしたりして油を上手に使いましょう。

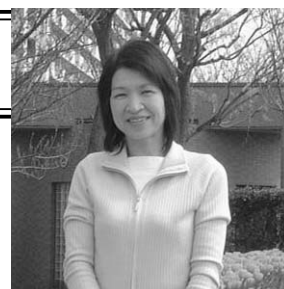
5, 酸味を加える

酸味を加えることにより、塩分が薄くても、うま味が引き出され食欲がでます。漬け物を例にとると、ぬか漬けなど塩分が高いですが酸味の入ったらっきょうやピクルスなどは夏場でもさっぱりおいしくいただけますし、塩分もぐっと控えられます。

6, 食習慣で気をつけること

- ① みそ汁を具たくさんに（具を今の倍はいれてみましょう）
- ② 卓上しょうゆを減塩しょうゆや味ポンに変えましょう（半分の塩分）

※ちょっとした注意で減塩習慣が身につきます。ストレスとならないようにできるところから実行してみましょう。



筆者

職 場 紹 介

●今回は小児科／皮膚科の紹介です。

小児科 小児科部長 鐺木陽一（かぶらぎよういち）

当院小児科は、この4月より横浜市の進める小児救急拠点病院構想に伴い、24時間365日の救急体制を充実すべく8人の医師で診療しています。スタッフは鐺木陽一医長、渡辺由佳医師、小林慈典医師、石田華医師、能本紀子医師、原良紀医師、平井綾医師、榎本聡子医師に研修医1名、さらに非常勤医師3名で、午前中の一般外来に加え、午後にはアレルギー・喘息、感染・免疫、循環器、腎臓、神経、発達の専門外来と、乳児健診、アレルギー児も含めた予防接種外来を行っています。休日・夜間の小児救急も、戸塚区休日診療所・横浜市南西部夜間急病センターとの連携を取りつつスムーズな入院受け入れを目指しています。



筆者 前列中央

地域連携では戸塚区の開業の先生方との小児疾患検討会などで交流を密にし、また高度医療を必要とするお子さんに対しては、横浜市大病院・神奈川県立こども医療センターなどの三次中核病院と連携を取りながら診療しております。

また学校保健では、従来から行ってきた学校検尿の腎臓病三次検診に加え横浜市学校心臓病検診の二次精密検査を実施し、地域保健では戸塚区子育てサポート連絡会への参加も始めました。

小児科の診療年齢は、生まれて間もない赤ちゃんから中学校を卒業するまでの15年間あまりです。病気が治ることはもちろんのことですが、年々大きくなっていく子どもの成長発達を、お父さんお母さんと一緒に見せていただけるのが、私たち小児科医の大きな喜びのひとつだと思っています。

小児科はいわば「総合診療科」です。目・鼻・耳・皮膚などの病気でも、とりあえず小児科へと思われるお母さんもいらっしゃるでしょう。それで結構です。小児科医で手に余る場合や、お母さんが他の医師の意見が聞きたい（いわゆるセカンド・オピニオン）と思えば他科の専門医をご紹介しますので、遠慮なくご相談ください。

皮膚科 皮膚科部長 坪井廣美

皮膚科には3名の医師・坪井、松井、百瀬、1名の看護師・矢部がいます。皮膚科外来診療は毎日午前中に行っており、入院診療も行っています。診療疾患はアトピー性皮膚炎や尋常性疣贅（いぼ）、伝染性膿痂疹（とびひ）、伝染性軟属腫（みずいぼ）、蕁麻疹などの一般的皮膚病から尋常性天疱瘡、水疱性類天疱瘡、膠原病、悪性腫瘍、薬疹等の入院を要する疾患まで幅広くあります。特殊な悪性腫瘍は時に癌センターに紹介する事もあります。上記医師の専門分野は脱毛症、水疱症等です。円形脱毛症、男性型脱毛症、各種疾患に伴うびまん性脱毛症が診療可能です。当科の目標は確実な診断・治療であり、それをめざして日々努力しています。近隣の先生におきましては、これからも皮膚科への御紹介よろしくお願いたします。また逆紹介をさせていただく際もご加療よろしくお願いたします。



筆者 右から2人目

看護部だより

頑張れフレッシュマン

副看護部長 菊地 ひとみ

4月に就職した49名の新人看護師たちは、3か月を経過し、それぞれの配置場所で頑張っています。この3か月間の教育・研修の様相を紹介しその成長の過程を見つめてみました。

就職してすぐに行われた6日間のオリエンテーション。国立病院機構の職員としての規則や管理、災害時の対応、マナーや接遇などの講義。採血や救急蘇生法、感染防止策などの技術演習。看護記録や医療安全、薬剤の取り扱いなどの講義と演習。内容の濃い毎日でした。そして組織人としての自覚を身につけ、自立した社会人の第一歩を踏み出したのでした。毎日の学習のなかで専門職業人として、患者さまの命や人生に関わることの心構えが育つよう教育を計画しました。

配置先では、プリセプターが新人を迎えます。マンツーマンでの指導は、相手を知ることから。看護だけでなく、慣れない横浜での生活相談にも頼れる先輩です。

現場での指導は真剣です。安全に看護を提供することの厳しさを教えています。

当院では、指導者であるプリセプターも、指導を受けるプリセプティーも共に学び育む「共育」の精神で取り組んでいます。

5月、就職して1ヶ月。緊張が続く勤務と学習の積み重ねによる疲労が貯まる頃。リフレッシュを目的にフォローアップ研修を行いました。グループワークでは、就職してうれしかったことや困ったこと、つらかったことを出し合い同期の仲間と意見を共有しました。ゲームをとおり協力したり、励まし合うことができ、気持ちを新たにしました。

6月は看護過程の展開、9月には看護倫理等の集合教育が予定されています。看護部は、フレッシュマンが一人前の看護師として成長できるように教育体制を整え支援しています。皆さん、時には厳しい指導を、そして今後の成長を温かく見守ってください。



実習指導者表彰を受けて

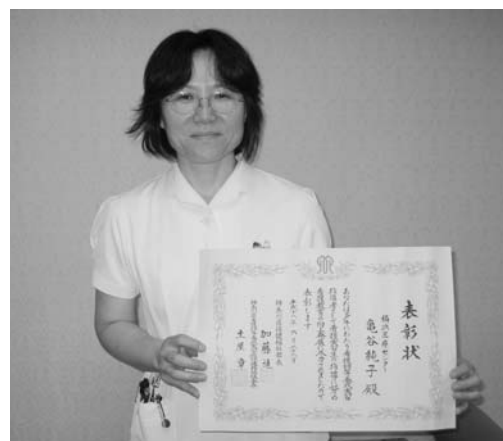
西1階病棟 副看護師長 亀谷純子

6月26日に神奈川県看護師養成実習病院連絡協議会より平成18年度実習指導者表彰を頂きました。

神奈川県看護師養成実習病院連絡協議会は、神奈川県内の看護師養成実習病院相互の連絡調整をはかるとともに実習病院の確保、拡大及び実習の効率化を図り、看護教育の向上発展を目指し実習病院の円滑な運営に寄与することを目的に発足し、今回で第15回の総会を迎えます。実習指導者の表彰は平成8年度から行われ、今年度は6人の実習指導者が表彰されました。

臨地実習は、学生が事例を通して看護の基本や看護技術を学ぶ貴重な体験であるとともに感性等を養う機会でもあり、より実践的な実習指導が求められています。さらに、看護職を取り巻く環境は、高度化・専門化が進み、かつ絶対なる安全性が求められています。そのような状況のなかで実習指導者は、学校と連携・調整をはかりながらより円滑に実習が実施出来るよう日々取り組んでいます。この日々の努力が認められ、実習指導者の代表として表彰されました。

今後の実習指導者の育成や、継続教育の充実、実習環境の改善、実習指導者に対する評価が高まることを期待し、より良質な医療・看護の提供が出来るよう今後も自己研鑽をしていきたいと思っております。またこのような機会を与えて下さいました院長先生、看護部長、看護学校、他関係部所の皆様に感謝いたします。今後の実習指導に携わる皆様の励みになればと思っております。



行事等紹介

消防訓練

看護学校 1年生 前田晴美

5月17日、午後に防災訓練が行われた。

中庭で先生と消防署の方からお話があった後、1年生は寮の3階へ、2年生は寮の裏へと移動した。救助袋を使った脱出の訓練をするためだ。地上へ下ろした袋が想像していた以上に急な勾配に見え、自分の番が来ないで欲しいと思った。でも、いざ降りてみると、想像していた程スピードは出ず、滑り台のようだった。救助袋の出口のところでは2年生が見ている、少し恥ずかしかった。

全員が滑り終わり、消火器の訓練に移った。赤いコーンを火に見立て、消火をした。手本を見せて頂いた消防士さんのような大きな声は出なかったが、みんな教わったとおりに上手く出来たと思う。

最後には1年生3名が消防士の服を着せてもらった。3人ともいつもとは違って少しくましく見えた。今回の防災訓練を、いざという時に役に立てられたら、と思った。



消防訓練を実施して

庶務班長 長澤俊視

去る6月20日(火)当院消防計画に基づく総合消防訓練(昼間想定)を、戸塚消防署大正消防出張所員立ち会いのもと50名余の職員が参加し実施しました。梅雨の季節の中、心配された天候も回復し、当日は東3階病棟食堂を出火場所に想定し、通報訓練、初期消火・消火班による屋内消火栓の消火訓練、避難誘導訓練と職員が一丸となりてきばきした行動で対応しました。

その後、災害対策本部がおかれた東病棟東側駐車場において、東1階病棟から接続した屋内消火栓による実際の放水訓練を行いました。また、消防署員指導の元、消火器による初期消火訓練を実施しました。この訓練には、本年度採用された新人看護師等により、「火事だ!」と言う大声をかけ、消火器を持って火元に向かい消火活動を行いました。慣れていない職員も多く、火元より遠くで放水を開始し、消防署員から指摘を受けた職員もいました。そんな中、茅根管理課長がパフォーマンスを見せ、周囲をわかせる場面もありました。

最後に出張所長による講評では、昨年と同様に「歯をみせていた」など辛口の指摘を数点受けました。またアドバイス等もあり、参加した職員も反省点を踏まえ、次回以降の消防訓練の見直しなどに役立てていきたいと感じました。協力していただいた消防署員の皆さん本当にありがとうございました。



行事等紹介

糖尿病フェア

去る5月31日（水）、恒例の「第3回糖尿病フェア」が、盛況に開催されました。会場では、体脂肪測定、糖尿病患者さんの宅配食の紹介、糖尿病薬の質問コーナーなどが設けられたほか、今年の見玉として運動によってどれくらい血糖値が下がるのかを調べるため、参加した方に簡単な体操をおこなって頂き、体操の前後で血糖値を測定しました。またしめくりとして宇治原先生に講演をお願いし、最近話題のテレビ番組の形式で、インスリンの歴史や運動の大切さについて、リラックスした雰囲気でお聞きしました。

糖尿病患者会「戸塚さくら会」の方から「糖尿病フェアに参加して元気をいただきました。さくら会では、専門の先生方や大勢の方々のサポートがあり、お話や、患者向けの最新情報を見たり聞いたりすることができるので入会し、会のメンバー共々ががんばっています。次の受診までにはなんとか少しでもいい方向にもっていきたいと思っています。秋にはウォークラリーが行われますね、それまで足を鍛えておこななくちゃ〜！」など感想を頂きました。皆様の参加をお待ちしております。

(糖尿病チームケアユニット／佐藤成彦)



宅配食の展示・試食をおこないました



会場の様子



糖尿病患者さんの運動方法について



宇治原先生の公演

研修医紹介

昨年の11名から今年度は研修医の数が16名に増えました。1年次、2年次ともに8名の体制となり、当直も1年次・2年次研修医がほぼ毎日研修出来る体制になりました。2年次の地域医療研修につきましては、昨年度に引き続き戸塚区医師会の先生方並びに戸塚福祉保健センターでの御協力をお願いしております。どうぞ宜しくご指導の程お願い申し上げます。



教育研修部長
椎名丈城

研修医自己紹介

1年次



一万田 充洋

「名字はなんと読むの？」と聞かれますが、深読みせずに「いちまんだ」です。2年間お願いします。



瓜生 康浩

山形大出身の瓜生康浩です。ご指導ご鞭撻宜しくお願いします。



川原 団

鹿児島出身の川原 団と申します、ハードな日々が続いておりますが、日々精進致します。宜しくお願い致します。



瀧澤 延喜

コツコツ努力し、歩み続けたいと思っています。宜しくお願いします。



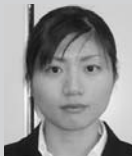
西上 真由

信頼される医師を目指し頑張りますので、よろしくお願いたします。



高橋 秀聡

原宿出身です。ラグビーをやっていたので体力勝負で頑張ります。



小田 真由美

和歌山出身です。のんびり屋ですが精一杯頑張りますのでよろしくお願致します。



岩瀬 由紀

山梨大学出身の岩瀬由紀と申します。一生懸命がんばりますのでよろしくおねがいます。

2年次



大石 季美江

1年目は市大センター病院で研修しました。どうぞよろしくお願いたします。



高瀬 薫

大分大学出身で、1年目は市大病院で研修してきました。宜しくお願い致します。



中村 淳

研修2年目の中村です。1年目は山梨大学で研修しておりました。



中山 裕子

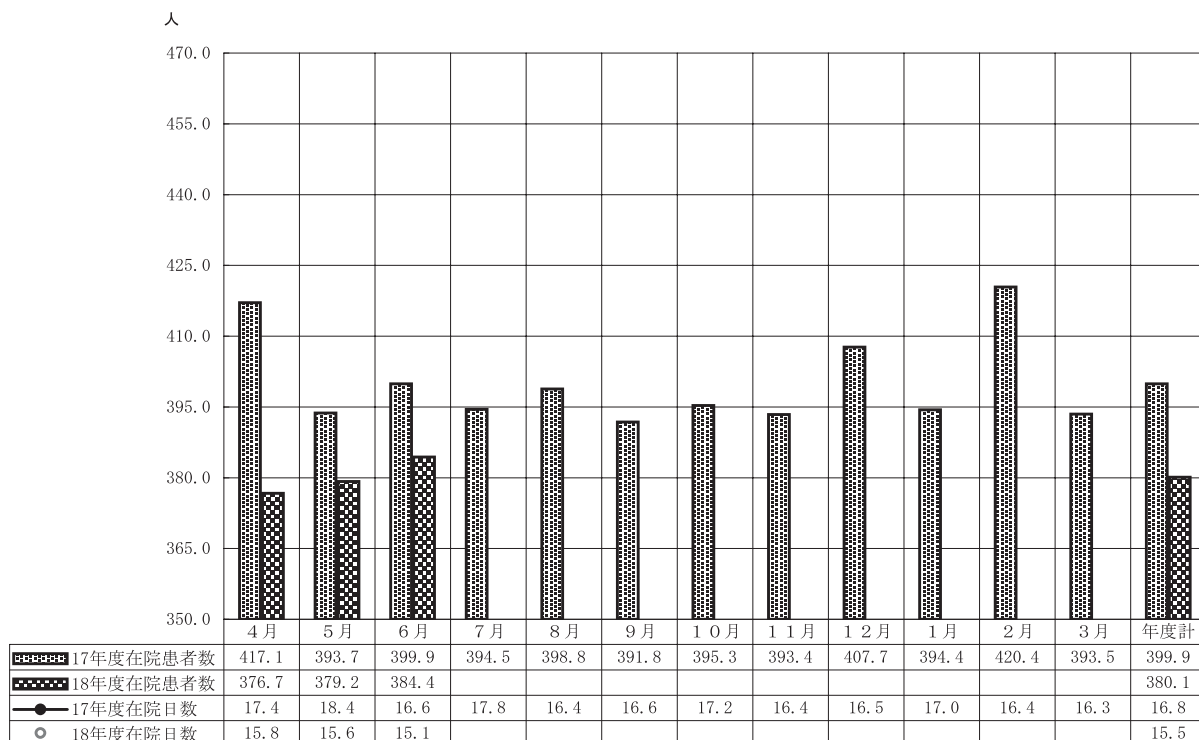
たすきがけ2年目研修として就職しました。宜しくお願いします。

◆ ◆ ◆ ◆ 医師の人事異動 ◆ ◆ ◆ ◆ (H18.4.2~H18.7.1)

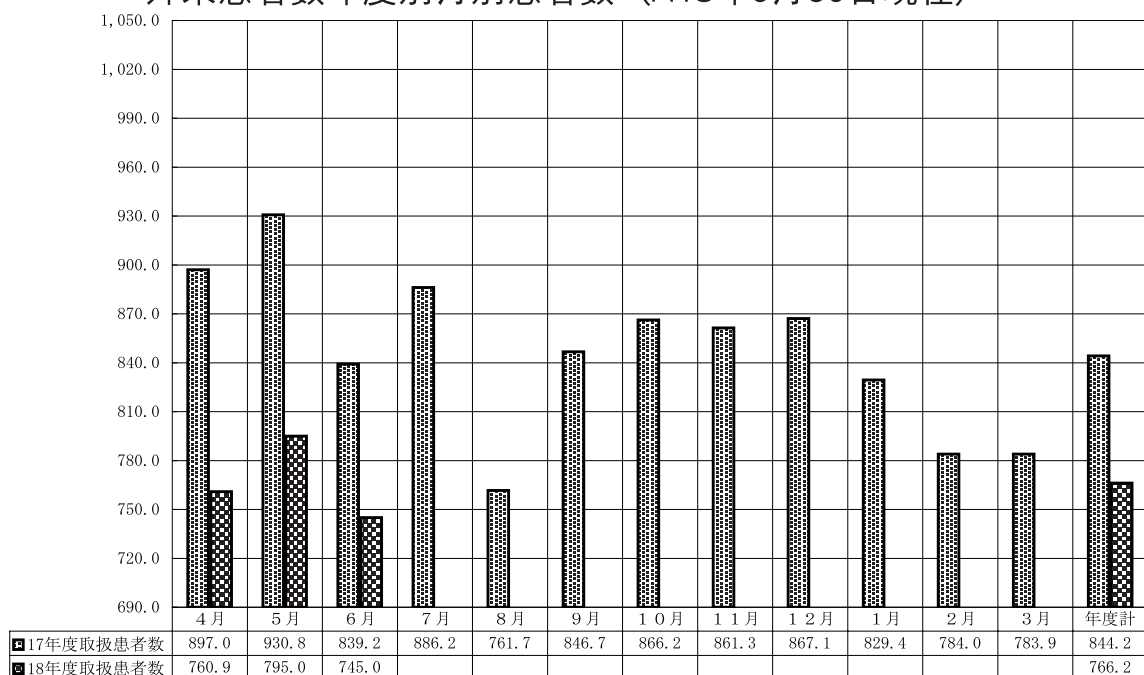
退 職 者				採 用 者		
発 令 年 月 日	氏 名	職 名	退 職 後 の 施 設 名	発 令 年 月 日	氏 名	職 名
平成18年4月30日	平 岩 芙 美 子	産婦人科医師	東京医科大学八王子医療センター	平成18年5月1日	下 村 貴 子	産婦人科医師
平成18年5月31日	岸 野 真 衣 子	消化器科医師	東京女子医大消化器病センター	平成18年6月1日	前 出 幸 子	消化器科医師
"	中 矢 か お り	眼科医師	順天堂大学医学部付属順天堂医院	"	羽 村 公 代	消化器科医師
"	野 登 は る か	レジデント(消化器科)	済生会栗橋病院	"	平 山 浩 美	レジデント(消化器科)
平成18年6月1日	根 岸 晶 子	呼吸器外科医師	横浜労災病院	平成18年6月2日	山 仲 一 輝	呼吸器科医師
平成18年6月30日	藤 田 き し ゅ う	心臓血管外科医師	ドイツ留学			
"	佐 々 木 真 理	研修医	山梨大学医学部附属病院			

患者数の動向 ～1日平均～

入院患者数年度別月別比較 (H18年6月30日現在)



外来患者数年度別月別患者数 (H18年6月30日現在)



編集後記

今号で表紙の水彩画を提供していただいた山本純子さんは、平成18年3月まで当院管理課庶務係に勤務し、その後現在戸塚区薬剤師会職員として当院院外処方箋窓口で勤務しています。武蔵野美術大学造形学部彫刻学科を卒業され、絵画のみならず詩、写真などの創作を行いながらもアーティストとして活躍し、現在、新風舎文庫から「音線音色」というポストカードブックを出版しています。お部屋に飾っても、大切なだれかを思って送ってもすてきな、一枚ずつはがきとして切り離して使えます。是非一度ご覧になって下さい。

診療科・曜日	月	火	水	木	金	備考
総合内科・初診	第1・3・5週消化器、2・4週循環器		松浦 宏之	関口 章子	泉二 恭輔	△:午後のみ診療 ▲:紹介状持参の方のみ
内科	高木 佐知子	今井 えりか	須澤 直木	宇治原 誠	注 宇治原 誠(予約のみ)	注 内科・金曜日(第2・4週)(第1・第3は休診)
神経内科	土井 宏	△高橋 竜哉	検査日	土井 宏	検査日	
呼吸器科	橋原 基史	検査日	山川 泰	検査日	橋原 基史	
消化器科	交代医師	塚田 百合子 △小松 達司(肝)	松島 昭三 羽村 公代	前出 幸子 清水 健	小松 達司	《循環器科新患当番医》 (月)第1・2[田中]・第3・4・5[岩出] (火)田中・(水)岩出・(木)田中[岩出]・(金)巽
循環器科	巽 藤緒 加藤 丈二	岩出 和徳 へーすメーカー外来	田中 直秀	青崎 正彦 田中 直秀	岩出 和徳	
アレルギー科	泉二 恭輔	検査日	検査日	△泉二 恭輔	△関口 章子	
心療内科	検査日	磯崎・須田	検査日	武川 吉和	検査日	<火曜日>奇数週(小児心身症)磯崎・偶数日(女性心身症)須田/<木曜日>(認知症鑑別・一般心身症)武川
精神科	立山 哲也 須田 彩子	武川 吉和	立山 哲也	磯崎 仁太郎	武川 吉和	※月～金:新患受付は10時まで受付けます。 但し、当該医師以外の医師が診察いたします。詳細は精神科外来にお尋ねください。
小児科	鍋木 陽一 石田 華	渡辺 由佳 原 良紀	鍋木 陽一 能本 紀子	小林 慈典 平井 綾	鍋木 陽一 榎本 聡子	
外科	佐藤 靖郎 交代医師	関戸 仁	松田 悟郎	◎土井 卓子 ◎田辺 美樹子	◆高橋 俊毅 ◆山本 俊郎	◆:完全予約制 ◎:乳癌外来(火・木)完全予約制
呼吸器外科					坂本 和裕 山仲 一輝	
整形外科	国府 秀俊 村瀬 知男 村上 恭平	日塔 寛昇 国府 秀俊 永島 和貴	国府 秀俊 村上 恭平 篠田 圭介	日塔 寛昇 村瀬 知男 永島 和貴 ※三谷 秀俊	日塔 寛昇 村瀬 知男 篠田 圭介	(受付時間)初診・予約外再診とも 8:30～10:00 ※予約のみ
形成外科	高瀬 税 急患のみ(手術日)	▲ 交代医師	△高瀬 税	高瀬 税 急患のみ(手術日)	高瀬 税	△:手術日のため午前のみ ▲:第1・3・5週(火)岡田 富 第2・4週(火)宮原 宏輔
脳神経外科	東館 雅文	手術日	検査日	盆子原 幸宏	東館 雅文	
皮膚科	坪井 廣美 松井 矢寿恵 百瀬 葉子	松井 矢寿恵 百瀬 葉子	坪井 廣美 松井 矢寿恵	坪井 廣美 松井 矢寿恵	坪井 廣美 松井 矢寿恵 百瀬 葉子	
泌尿器科	本田 直康	本田 直康	手術日	奥野 紀彦	本田 直康	
産婦人科	中村 秋彦 永田 順子	外村 光康 小林 久美	中村 秋彦 外村 光康	永田 順子 下村 貴子	中村 秋彦	
眼科	設楽 幸治	設楽 幸治	設楽 幸治	設楽 幸治	急患・新患のみ(手術日)	(受付)初診・予約外再診とも 月～木曜日 8:30～10:00 新患・急患のみとなります。金曜日 8:30～9:30
耳鼻咽喉科	山田 昌宏 榎原 敦子	山田 昌宏 榎原 敦子	手術日	榎原 敦子	山田 昌宏 榎原 敦子	
放射線科	栗原 須生美 ※注①	中山 優子 ※注②	日下部 きよ子 (甲状腺外来) ※注③		中山 優子 ※注②	※注①月曜日 8:30～11:00【完全予約制】 ※注②火・金曜日13:30～15:00【予約は内線4307まで】 ※注③診察日は放射線科にお問い合わせ下さい。
歯科口腔外科	塩入 重彰 丸山 貴子	塩入 重彰 丸山 貴子	手術日	塩入 重彰 丸山 貴子	塩入 重彰 丸山 貴子(午前のみ)	新患(紹介状又は、診療情報提供書を持参して下さい)【可能な限り】 新患は、火・木曜日の午前8:30～11:00まで。再診(完全予約制)。
専門外来 (午後のみ)	小児	発達(福山)第2週 第4週 アレルギー・感染・ 免疫(小林) 喘息(鍋木) 予防接種(アレルギー のみ)(交代医師)	予約外来(渡辺) 腎(伊藤)※第一週	神経(大浜)第 2・4週 喘息(石田)	乳児検診(交代 医師) 発達(能本)	循環器(鍋木)※第1・ 3 予防接種(交代医師)
	外科	横浜市乳がん 検診 ※注④	癌化学療法外来	癌化学療法外来	癌化学療法外来	※注④横浜市乳癌検診の受付:14:00～16:00乳癌検診 ◎:脳ドックは現在は実施していません。
	女性 診療 外来	※注⑤		スキンケア外来 ※第2・4週		※注⑤担当医:[外科土井・皮膚科坪井・婦人科紅露] 女性のための総合診療をめざす外来です。 完全予約制ですので電話で予約をして下さい。婦人科は非常 に混雑しているため受診を希望される方は、予約の際に必ず申 し出て下さい。心療内科受診を希望する方は、女性診療外来 を受診して予約を取る必要があります。お手数をおかけします。
	産 婦	母親教室			母乳外来	
	耳 鼻	補聴器外来 腫瘍外来	アレルギー外来		補聴器外来	学童外来
	循環	へーすメーカー ※注⑦				

初診受付:平日8:30～11:00
但し、整形外科、眼科、放射線科は上表備考のとおり
再診(予約外)受付:平日8:30～11:00
但し、整形外科、眼科、放射線科は上表備考のとおり
休診日:土曜・日曜日・祝日・12月29日～1月3日

※急患は随時受け付けます。来院前に病院にご連絡下さい。(TEL 045-851-2621)
※紹介状又は、診療情報提供書をお持ちの方は、外来受付窓口にご提示下さい。
※地域医療連携室 TEL 045-853-8355 (月～金 8:30～17:00)
TEL 045-851-2621 (時間外、土・日・祝日)
FAX 045-853-8356

お知らせ 色つき部分に変更箇所となります。ご確認の上受診ください。

(写真右)

戸塚は江戸時代には東海道の宿場として栄えており、旅籠の数も小田原に次ぐ所江戸より10里、小田原まで10里と中間点にあるため、江戸を朝立ちして戸塚で泊まり翌朝小田原に向かって出発するので大変賑わった町でした。

又、現在の戸塚消防署とスルガ銀行戸塚支店の間は大商店が立ち並び、旅籠や遊廓等が点在していました。

